

ONE

OCEAN NETWORK EXPRESS

2021年度第2四半期決算説明資料

2021年10月29日

- ▣ 1. 2021年度第2四半期決算概要 P.3
- ▣ 2. 主要航路別積高・消席率・運賃指数 P.4
- ▣ 3. サプライチェーン混乱の影響と対応 P.5
- ▣ 4. 2021年度通期見通し P.6
- ▣ 5. 競争力及びサステナビリティ強化へ
向けた取り組み P.7
- ▣ 6. 参考資料（船隊構成、航路構成） P.8

1. 2021年度第2四半期決算概要

□ 要点

活況な市況の継続により、前年同期比大幅に改善し、第2四半期で4,200百万US\$の黒字を達成 (+3,685百万US\$)

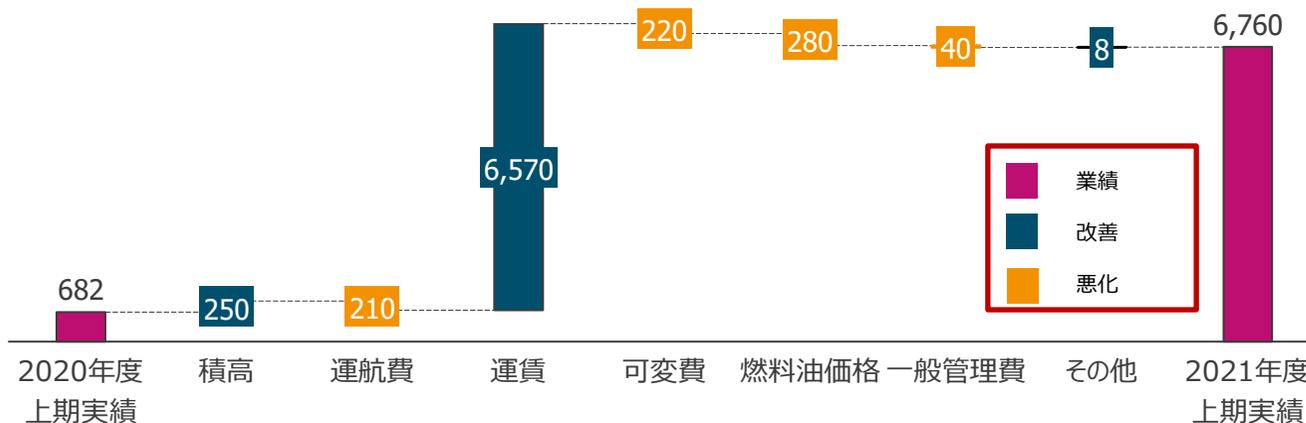
- 7-9月の世界の荷動きは対前年同期比約10%弱の増加で推移。旺盛な貨物需要により各航路満船の状況が継続。
- サプライチェーン全体の混乱は1Qからさらに悪化し、港湾や内陸の混雑、各港における滞船が引き続き発生。
- 運賃市況も想定を大幅に上回る水準で推移。

□ 2021年度上期実績並びに対前年同期比較

(単位：百万US\$)

	2020年度			2021年度			2Q 対前年同期比		上期 対前年同期比	
	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	増減	増減 (%)	増減	増減 (%)
売上高	2,736	3,181	5,917	5,776	7,557	13,333	4,376	138%	7,416	125%
EBITDA	488	854	1,342	2,924	4,572	7,496	3,718	435%	6,154	459%
EBIT	242	603	846	2,657	4,295	6,952	3,691	612%	6,106	722%
税引き後損益	167	515	682	2,559	4,200	6,760	3,685	715%	6,077	891%
燃料油価格 (US\$/MT)	\$348	\$309	\$328	\$465	\$509	\$487	\$200	65%	\$159	48%
総燃料消費量 (K MT)	877	887	1,765	906	891	1,797	4	0%	32	2%
総積高 (K TEU)	2,673	3,061	5,734	3,104	3,181	6,285	120	4%	551	10%

□ 2021年度上期実績対前年同期比較



- 積高：COVID-19の影響を受けた前年上期から取扱量は回復し、旺盛な貨物需要が継続。
- 運航費：港湾混雑により遅延が継続。スケジュール維持のための増速等により運航費は悪化。
- 運賃：長期運賃の上昇ならびに短期市況は大幅に上昇。
- 可変費：コスト削減は進展するも、港湾や内陸の混雑により追加費用が発生。
- 燃料油価格：油価は上昇。
- 一般管理費：代理店費用やシステム費用が増加。
- その他：為替影響や金利等による改善。

2. 主要航路別積高・消席率・運賃指数

(単位：千TEU)

航路別積高・消席率		2020年度							2021年度		
		1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績
北米往航	積高	610	765	1,375	730	659	1,389	2,764	615	649	1,264
	消席率	96%	100%	98%	103%	102%	103%	100%	100%	100%	100%
欧州往航	積高	347	419	766	402	389	791	1,556	436	443	879
	消席率	96%	98%	97%	102%	99%	100%	99%	100%	100%	100%
北米復航	積高	327	328	654	368	330	698	1,352	328	309	638
	消席率	51%	43%	47%	54%	56%	55%	51%	54%	54%	54%
欧州復航	積高	290	289	579	331	308	639	1,219	339	347	687
	消席率	75%	70%	73%	80%	80%	80%	76%	82%	78%	80%

(2018年度1Qの各航路総平均運賃を100とした指数)

航路別運賃指数		2020年度							2021年度		
		1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績
北米往航		110	119	115	140	157	148	132	185	247	216
欧州往航		106	103	104	125	280	201	153	327	451	389

- 積高・消席率：北米往航の積高は需要増により1Q比で増加、消席率も満船を維持。前年同期比では西岸ターミナル混雑による影響が大きく、積高は減少。欧州往航は需要増により1Q比で積高増加、消席率は満船を維持。前年同期比でも積高、消席率共に改善。
- 運賃指数：前年同期比で運賃市況は大幅に上昇。1Q比でも上昇。

3. サプライチェーン混乱の影響と対応

発生事象

- 消費財を中心に、7-9月の世界的な貨物需要は対前年同期比約10%弱の増加と引き続き強含み。北米航路の7、8月の荷動きは対前年10%程度増加、2019年度と比較しても15%程度の増加と引き続き強い荷動き。欧州航路の7、8月の荷動きは前年並み。2019年度と比較しても同程度の荷動き。
- 貨物需要増加、中国港における台風の影響、また、COVID-19による労働力不足の影響も引き続き残り、世界的に港湾・内陸での混雑が悪化。
- トラック、シャーシ不足等によるコンテナ引き取りの遅延が引き続き発生。
- 世界各国の移動制限は一部改善の兆しが見えるも、船員交代に関しては未だ困難な状況が残る。



ONEの対応

Customer service oriented

- eコマースの新機能“ONE QUOTE” などデジタルソリューションの機能を拡充。
- ONE Mobile APPに新機能Track & TraceとChatを追加。顧客にタイムリーな情報を提供。

Operation excellency

- 船の遅延と貨物量急増による積み残しの解消、スケジュール維持のため、増速を含めた運航最適化を実施。
- コンテナ調達を継続し、順次投入中。保冷コンテナのフリートを一層強化。
- AI技術も活用し、自社スペースの最大運用、及び追加船舶を活用したコンテナ回送を実施、コンテナ持ち帰り最大化。
- ターミナルとも協業しコンテナの早期引き取りおよび返却の働きかけを実施。
- 船員交代のための臨時寄港にも最大限対応、船主との協力を強化。

Quality of employee

- 全世界のオフィスで柔軟な在宅勤務を実施。
- 社員同士の繋がりを維持し、地域社会に貢献するためのCSR活動を継続。



**サプライチェーン全体に対して許容量を超える負担がかかっている状況が1Qと比べてさらに悪化。
ONEとしては社会インフラを維持する責任を果たすべく最大限の対応を実施。**

4. 2021年度通期見通し

□ 要点

2021年度通期業績は旺盛な貨物需要と運賃市況の改善を背景に税引き後利益11,760百万US\$を見込む。

- 足元の荷動きは堅調も、下期は例年の旧正月等の季節要因による荷動き減退を考慮し5,000百万US\$の税引き後利益を予想。

□ 2021年度通期見通し

(単位：百万US\$)

	2020年度 実績			2021年度最新予想			通期	
	上期 実績	下期 実績	通期 実績	上期 実績	下期 予想	通期 予想	増減	増減 (%)
売上高	5,917	8,480	14,397	13,333	12,080	25,413	11,016	77%
EBITDA	1,342	3,513	4,855	7,496	5,630	13,126	8,271	170%
EBIT	846	2,987	3,832	6,952	5,100	12,051	8,219	214%
税引き後損益	682	2,802	3,484	6,760	5,000	11,760	8,276	238%
燃料油価格 (US\$/MT)	\$328	\$335	\$331	\$487	\$589	\$541	\$209	63%

5. 競争力及びサステナビリティ強化へ向けた取り組み

- ▶新サービスKCS(Korea – China – Straits)を組成。10月30日より開始予定。マレーシアのPasir Gudangに寄港させることでニッチなポートペアを顧客へ提供。アジア域内サービスのさらなる拡充を図る。4月開始の東アフリカサービスEAFも堅調で満船が続く。
- ▶ONE QUOTEのさらなる機能を追加、サービス範囲を拡充。9月28日からは北米往航にも適用を開始。顧客からの依頼に迅速に対応すべく対象国も徐々に拡大している。
- ▶シンガポール海事港湾庁(MPA)と海事産業の脱炭素化に向けたファンドGCMD(Global Centre for Maritime Decarbonization)の設立に参画、総額10百万SGDの出資で合意。
- ▶海運におけるサステナビリティと環境負荷軽減の取り組み強化でPSA(Port of Singapore Authority)と連携。脱炭素など業界を挙げての活動を推進する。
- ▶Getting to Zero Coalition(以下GTZ)による「Call to Action for Shipping Decarbonization」の趣旨に賛同し、海運の脱炭素化を目指して150以上の組織・団体と共同でGTZから各国政府へ提言する。

6. 参考資料（船隊構成・航路構成）

船隊構成

Size		1)2021年6月末	2)2021年9月末	2)-1)
>= 20,000 TEU	キャパシティ(TEU)	120,600	120,600	0
	隻数	6	6	0
10,500 - 20,000 TEU	キャパシティ(TEU)	441,600	456,600	15,000
	隻数	32	33	1
9,800 - 10,500 TEU	キャパシティ(TEU)	110,200	110,200	0
	隻数	11	11	0
7,800 - 9,800 TEU	キャパシティ(TEU)	365,698	365,698	0
	隻数	41	41	0
6,000 - 7,800 TEU	キャパシティ(TEU)	163,984	163,984	0
	隻数	25	25	0
5,200 - 6,000 TEU	キャパシティ(TEU)	83,699	77,632	▲ 6,067
	隻数	15	14	▲ 1
4,600 - 5,200 TEU	キャパシティ(TEU)	103,607	103,169	▲ 438
	隻数	21	21	0
4,300 - 4,600 TEU	キャパシティ(TEU)	67,271	67,271	0
	隻数	15	15	0
3,500 - 4,300 TEU	キャパシティ(TEU)	29,130	29,130	0
	隻数	7	7	0
2,400 - 3,500 TEU	キャパシティ(TEU)	71,814	74,356	2,542
	隻数	27	28	1
1,300 - 2,400 TEU	キャパシティ(TEU)	10,415	10,415	0
	隻数	6	6	0
1,000 - 1,300 TEU	キャパシティ(TEU)	10,663	10,663	0
	隻数	10	10	0
< 1,000 TEU	キャパシティ(TEU)	0	0	0
	隻数	0	0	0
合計	キャパシティ(TEU)	1,578,681	1,589,718	11,037
	隻数	216	217	1

航路構成

(2021年2Q 往復スペースの構成)

